


## 2018 年度 研究サマリー

研究会名称	腎疾患の発症・病態生理と進展防止に関する研究会	
代表者所属	東京女子医科大学	
代表者氏名	新田 孝作	
研究方法・結果	<p>平成 30 年度の研究プロジェクトの目的は、維持期の血液透析患者を対象として、登録時の臨床検査データおよび治療内容に基づき、鉄代謝マーカーと死亡率との関係を検討しました。</p> <p>腎臓内科の関連施設である常磐病院で維持血液透析を施行中の 398 例を対象としました。対象症例の年齢（中央値）は 76 歳、男性が 64.8%、透析歴は 29.5 ヶ月（中央値）、糖尿病合併は 44.5%でした。ベースラインデータとして、年齢、性別、透析原疾患および透析期間を基本データとしました。至摘体重、透析間増加量、透析前血圧、脈圧、BMI、ヘモグロビン(Hb)、透析効率(Kt/V)、たんぱく質摂取量(nPCR)および生化学検査（アルブミン、CRP、総コレステロール、HDL コレステロール、中性脂肪、補正カルシウム、リン、iPTH）は、研究開始 3 か月の平均値としました。鉄代謝マーカーとして、トランスフェリン飽和度(TSAT)と血清フェリチン値を用いました。TSAT&lt;20%、20-40% および&gt;40%の 3 群に分けて検討しました。3 群間で有意差を認めたのは、Hb、フェリチン、中性脂肪、HDL コレステロールおよび CRP でした。観察期間は 5 年間です。3 群比較では、総死亡と関連があったのは、TSAT&lt;20%の群でした。Kaplan-Meier 曲線による解析でも、TSAT&lt;20%の群で有意に総死亡率が高いという結果でした。Cox 比例ハザード解析では、総死亡に関与する因子として有意であった因子は、年齢、男性、BMI、収縮期血圧および糖尿病の存在で、TSAT&lt;20%は有意な因子として抽出されませんでした。しかしながら、TSAT&lt;20%の群は感染症による死亡に関与していました。3 群間で鉄剤や ESA の投与量に有意差はなく、血清フェリチン値が低い傾向にあり、鉄欠乏が死亡に関与していることが判明しました。よって、予後を改善するためには、鉄欠乏の適切な是正と炎症の原因解明と治療が重要であると考えられました。</p>	
研究成果（論文、学会発表、雑誌掲載等）	<p>1 Sato M, Hanafusa N, Tsuchiya K, Kawaguchi H, Nitta K: Impact of transferrin saturation on all-cause mortality in patients on maintenance hemodialysis. Blood Purif, 2019</p>	